

□ある集いその足あと

# K・F・K・

(神戸婦人子供服小売商組合)

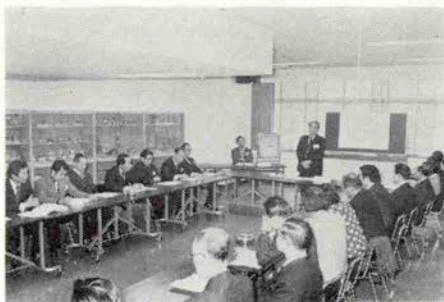
## 坂野 通夫

△KFK理事長・関フアミリア社長V

神戸市がファッション都市づくりを提唱して五年が過ぎました。

この間、私たちはファッションの中心となる婦人服、子供服、洋品雑貨及び衣料店などの組織づくりについて協議を進めて来ましたが、神戸市経済局などの指導の下、昭和五十年九月にKFK(神戸婦人子供服小売商組合)が創立しました。

元来、小売業は一匹狼のようないところがあり、組織化が仲々難しかったわけですが、しかし、業者のなかにも同業者が力を合わせて消



第4回通常総会風景より(中央が坂野通夫理事長)

費者に喜んでもらえるファッションを生みだし、その良さを認識してもらうために組織化しなければならぬという考えが強まり、結成にいたりました。

KFKはその目的を「組合員相互扶助の精神に基き、組合員のために必要な共同事業を行ない、もって組合員の自主的な経済活動を促進し、かつ、その経済的地位の向上を図る」と唱い、組合員の資格を「神戸市内にて婦人既製服、服地仕立、婦人洋品、雑貨、子供服、洋品雑貨の小売業を営むもので、神戸市内に事業場を有すること」と規定しています。

現在会員は五十六社。定期的に毎年春に総会を開くほか、一月は新年の名刺交換会、夏には六甲山での親睦会を開いています。

また、活動としては五月の神戸まつりへの参加、秋のファッション・ウィークへの参加などがあります。

私たち小売業は直接、消費者につながっていますので、消費者の意向、関心が早くキャッチでき、それを製品にフィードバックすることができま。今後小売のウエイトは益々大きくなって来ると思います。たとえばアメリカでは小売の力がとても大きいようです。メーカーは小売からの注文を中心に製品をつくれればいい。それだけ

小売の発言権が強いかわりにリスクも大きいわけです。ところが日本では問屋という中間の存在に何となく牛耳られている。これを何とかしないと小売の社会的使命はなくなると思います。

神戸の専門店店はよそに比べて高く評価されている傾向があるようです。そういう良い評価に対して私たちは神戸を代表する専門店としてのファッションリーダーとしての哲学をもたないといけないと思います。

私たちの役割は神戸を自然環境豊かな、楽しい町にする。また、神戸に住んでいる人たちに、何かもう少し色づけをして、衣食住のトータルルックのような楽しさをつけ加えてもらう、ということでしょう。

一口にモノを売るといっても、お客さまが満足し、また、買いに来たくなるような売り方をするのは大変に難しいことだと思いますが、KFKのメンバーはそのへんのところを切磋琢磨して、ひとつの方向にまとめて行く必要があると思います。

これから私たちは付属資材類などの協同購入などのほか、各種セミナーを開いてお互いに勉強をして行く一方、会員も積極的に増やし、さらに組合員相互の交流も一層深めたいと考えています。

# 刀剣 古美術



金銅大日如来座像一、二〇〇、〇〇〇円  
(高さ五〇センチ)

鑑定 買入 刀剣 研磨 その他工作  
一ヵ月仕上 是非ご用命下さい。  
お支払いに便利なローンをご利用下さい。

刀 剣 元町美術  
古美術

神戸市生田区元町通6丁目25番地

TEL 078-351-0081



鍛えぬかれたしにせの味…

## ゴーフル



ほろほろと軽い2枚の洋風  
せんべいに、バニラ、スト  
ロベリー、チョコレートの  
3色のクリームをはさんだ  
爽やかな風味——  
お子さまからお年寄りまで  
巾広く親しまれている  
風月堂の代表銘菓です。



神戸 風月堂

本社 神戸元町3丁目 ☎ (078) 321-5555

# 『天秤』の連中

足立 卷一 〈詩人〉

わたしたちは『天秤』という詩の同人雑誌を、戦後まもないころからつづけている。もっとも季刊ということになっているが、励行したことはほとんどなく、一服しがちである。最近もそうで二年ほど休んでいて、近く第46号を出す。同人の顔ぶれも少し変わるかもしれない。何はともあれ、この『天秤』の連中がわたしにとっては、心やすい友だちということになる。

その名前をあげると、米田透・亜騎保・岡本甚一・津高一・伊田耕三・静文夫・田部信・宮崎修二郎・桑島玄二・板谷和雄・鳥巢郁美・三浦照子の十二人である。ただし、この順番はわたしにとってつきあいの古い順である。

最も古い米田透は、わたしが長崎から神戸に来て諏訪山小学校の二年に編入学した大正十一年九月以来であるから、じつに五十六年のつきあいになる。それも、その五十六年間一度もケンカしたことがなく、趣味を同じくしてきたのだから、思えば奇妙である。小学生のころはふたりとも絵が好きで熱中し、そのちは同じようにして短歌から詩に移り、いまもお互いに少年の気持ちのままに詩を作っている。こういう友は、生涯まことに得がたかろう。

この米田は、早く両親に死に別れたこともあって、幼いときから世の辛酸をなめつくした。ところが、世俗の垢をいっそう身につけぬ男なのだ。かれほどの人生体験を積み、海千山千のしたたか者になってもおかしくないのに、いまなお滑稽なほど真正直なのである。それだから詩も書けるのであろう。ただ、ひどく頑固者である。それが見事だと思う。中年以後は大阪の広告会社に勤め、その役員にもなったが、数年前、長年住みなれた家にささやかな書齋をこしらえると、勤めをきれいさっぱりやめて引きこもってしまった。会社からは出勤を求められたし、かれ自身の健康が耐えられなくなったわけではない。それで何をしているかといえば、午前中は運動代わりに屋内をていねいに掃除し、柱も一本一本拭き、新聞をすみからすみまで読み、あとは手紙を書いたりテレビ、ラジオで時を過ごしたりする。そして、夕食となると、ゆっくりゆっくり酒を飲む。別に金があり余っているわけではない。厚生年金を節約してのことらしい。こういう暮らしぶりは、はたの者にはちょっとわからない。もったいなくもあるし、不健康にも見える。ところが、本人は何といわれようと、この日常をいささかも改めようと





朝風第4回短歌会で（前列左から）岬弦三・森井誠一・大島正晴・今本益雄・木下福二（中列左から）塚本泰章・足立健一・吉田鶴夫・地良田彌・亜騎保・前田謙三（後列左から）江見希成・後藤青果・中村芳夫・大島成雄・米田透・沼田清信・只野由紀夫 敬称略

はしない。でも、五十余年もつきあってきたわたしには、そこがこの男らしいところではないかと感心する。要するに、無意識かもしれないけれど、本能のように自分の天命を知っているのだと思う。

天命を知る——といえはなんだか大層に聞こえるが、六十歳を過ぎれば、だれでもそれぞれに自分の人生に大体の見当がつく。わたしはそれを天命と仮に知っているだけであるが、その知りようがまたさまざまで、それがおもしろいと思う。

亜騎保・岡本甚一とは中学の高学年のころに知り合った。といっても同窓というわけではない。そのころ『あさなぎ』という短歌会が神戸にあった、そこで知ったのである。今本益雄・沼田清信

・前田謙三・只野幸雄・地良田稠などは、そのときの友人である。今本も沼田もいまは俳句をやり沼田は最近『折れし釘』という四冊目の句集を出した。前田・只野はやはり短歌をつづけ、前田は神戸で『白陽』を出し、只野は『ボトナム』に属して『短歌新聞』を発行し、地良田は『六甲』に出詠している。

いうな過去冬日の中の折れし釘

沼田の句集の題名はこの句からきている。激しい感懐があると思うのだが、なお、次のような一句もある。

存命なほ暫く遊べと冬雲いふ

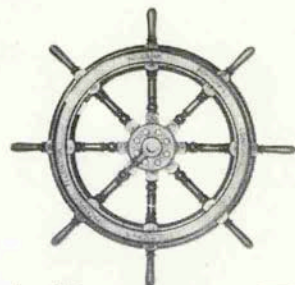
これも沼田ひとりではなく、わたしをふくめて老友に共通する心境の一端ではないかと思う。このほか『あさなぎ』では少からぬ友を得たが、いまはほとんどが死んでしまった。このことはすでに『鏡——九鬼次郎の青春と歌稿——』という作品に書いたので省筆しよう。

ところで、これらの『あさなぎ』の人たちのうちで、いまでも亜騎・岡本と特に親しいのは、いっしょに短歌から詩へ移り、『青騎兵』『牙』『以後』『カタルシス』をへて『天秤』までずっと同人雑誌をいっしょにやってきたからのことにすぎない。米田もそうである。亜騎は二度の大患を奇跡のようにくぐりぬけ、昔からの会計マンとしての仕事をつづけながら、昔ながらに読書にふけり詩を書いている。岡本は詩はやめたが、書店主として元気に働いており、毎年正月には旧友を招いて馳走するのを楽しみとする。思えば青春の日の同人雑誌というのは、文学そのものよりもふしぎな友情を育てるものかもしれない。

（つづく）

# □神戸商船大学と神戸

## 陸にあがった海のロマン



南 正巳

△神戸商船大学学長▽

瀬戸内海は、古来日本第一の海上航路で、十二世紀に平清盛が兵庫の大輪田泊を修築し、音戸の瀬戸を開いて海運に大きな貢献をして以来、四国、九州の諸国との往来は絶えることがなく、次第に交通の規模も拡大した。

ことに近世になって、京、大阪の上方と江戸の二大都市が形成され、両者を結ぶ南海路は著しい活況を呈し、さらに各地の諸商品流通のための東廻り、西廻り海運などの諸航路にはことごとく和船が就航した。和船というのは、明治以降急速に普及する西洋型船に対して、わが国の伝統的な木造船を総称するものである。灘五郷の酒が江戸市民の口に入ったのも、船脚の速い樽廻船が登場したためで、当時、積荷を多くするために工夫された菱垣廻船と覇を競ったものという。

世が移って明治以降に洋帆船が強度と機能性から和船を駆逐し、汽船がとって代るにつれて、瀬戸内海の津々浦々の状況も次第に変っていった。室津、尾道、沖家室などかつて股賑を極めた港町も時代の波を浴びるに至り二十世紀の後半に入った現在では、この近世から近代にかけての海事史は、瀬戸内海運の発達を物語る資料をどのように探り、どうして保存するかという問題に直面しているといえよう。

国道四三号線に面している本学の正門を入ると、右手に一棟の大きな講堂の建物がある。この階下全体が「海事資料館」となっていて、近年は内外からの来訪者や進

徳丸の青少年訓練センターでの実習の一環として見学者の数も増加してきている。

船舶関係資料は教材や参考品として商船教育に不可欠のものであるが、本学の前身神戸高等商船学校の校長であった小関三平氏は、昭和五年九月に神戸市が王子で海博覧会を開催したさいに、三十三点の資料を展示して海事思想の普及に努め、のち海事博物館の構想を抱いたというのも、神戸という土地柄を背景として当然のことであつたらう。

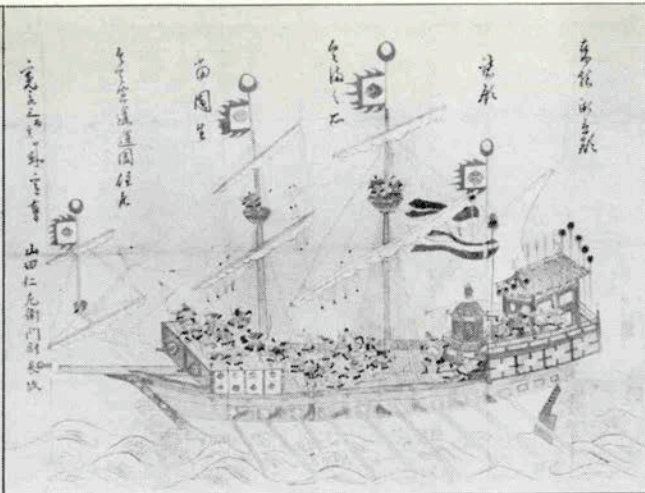
「一粒の麦もし死なずば……」の言葉のとおり、この時蔭かれた種は戦後に商船大学となって、三十三年五月に海事参考館として芽を出し、以来小谷信市もと学長らの理解者と、学の内外からの協力を得て海事資料館と改称して成長し、本年五月に二十周年を迎えた。収蔵資料は約二千点、うち各種船舶関係の実物・標本・模型が大半を占め、その他に写真や巻物・絵図類などに及んでいる。最も特色とするところは和船関係の資料が豊富なことで全国の博物館中でも屈指の量に達している。次にその中で主なものを四点ほど紹介しておくことにしよう。

「北前船模型」 旧高等商船学校時代から伝えられた模型で、全長一・〇六メートルの小型ながら、実際の和船と同様の材料を選び、構造は精巧を極めて、細部の彫刻に至るまで忠実に再現している。艀装は明治中期の北前船として末期の姿を写し、戦前、若い頃この船をよく知

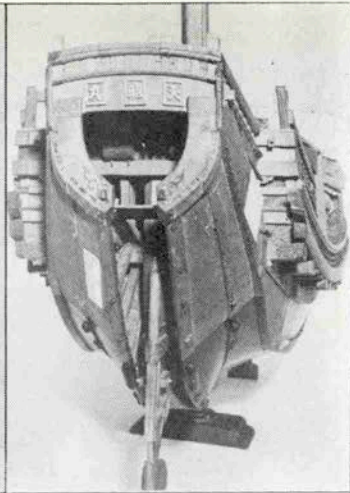




朝顔丸船首像



山田長政戦艦図模写



北前船「天昭丸」模型

つていたと思われる一老人が、ためつすがめつ観察したのち、綱の結び方一つに至るまで入念かつ正確に作ってあることに感嘆したという話も伝えられている。なお北前船というのは、裏日本と瀬戸内を結ぶ西廻海運の船のことである。

「山田長政戦艦図模写」 山田長政は江戸初期の海外渡航者で、シヤムにおいて武功を立て同地の六昆王に封ぜられたという。もと駿河浅間神社に奉納されていたものの模写図で、原物は一八世紀末に焼失した。彼の使用した戦艦と伝え、艦寄りに甲冑に身を堅めて立つ人物が長政らしい。艦に矢倉を設け、櫓と西洋型の横帆を併用し、軸先と舷側に大砲を備えているなど、艦装の表現が興味深い。

「朝顔丸船首像」 長衣をまとう女神をかたどった、高さ一・三メートルの木像で、豊満な体付ながら容貌はあどけなく、気品がある。船首像というのは帆船の船首に取り付けられた飾彫刻で、もともとヨーロッパで発達し、なかなか華麗なものが多く、これを取り付けていた朝顔丸は、十九世紀末に英国で建造、明治二十六年ごろは神戸―小樽間の東廻り郵船航路に就航していた二千五百総トンの鋼船であったという。ところが明治三十七年末、日露戦争酣の際に、旅順港閉塞のため出撃し、黄金山砲台下の港口で爆沈した。船首像はこれに先立って広島で取り外され、大切に保存されてきたものである。

「イル・ド・フランス号舵輪」 先年引退したフランス号の前船で、かつてフランスの誇る大西洋航路の豪華客船であった。船齢三十年に達して引退し、全フランス国民の惜別を受けつつルアーブル港を出港、四万トン余の巨船は日本に廻航されて大阪南港で解体された。舵輪はこの時取り外して本学に寄贈されたもので、船名は刻まれているものの、重厚な造りの容姿はさすがに世界の花形客船にふさわしい。

なお、本学海事資料館は常時開館していないが、図書館長あて見学を申し出られれば、便宜をはかっている。

# 5℃の風

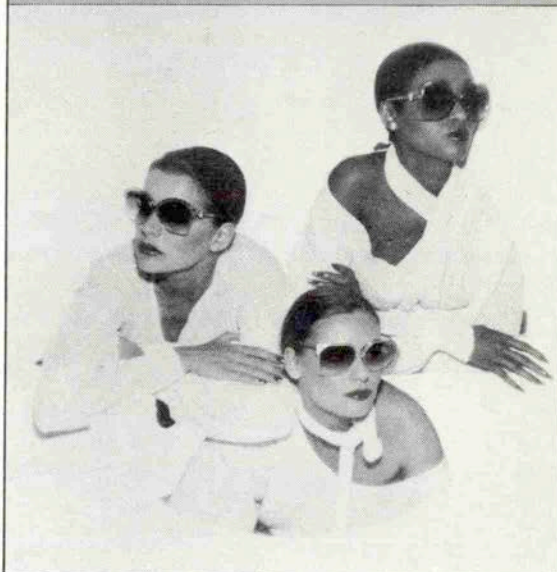
ユーハイム デザート



このマークのお店でお買い求め下さい

本店 神戸市生田区下山手通 2-31 TEL (078)331-1694  
 三宮店 神戸市生田区三宮町 3-15 TEL (078)331-2101  
 さんちか店 神戸市生田区三宮町 1-1 TEL (078)391-3539  
 西ドイツ本店 フランクフルト・アム・マイン・アム・ザルツハウス 1  
 ゲーテハウス内 TEL (0611)280262-3

白い光に向かって。



顕微鏡・天体望遠鏡・航海計器・光学器一般

## 服部メガネ店

神戸・大丸前 TEL 331-1123

# 電子戦の

# 誕生

諸岡 博熊

△神戸市金岡局参事▽

第二次大戦は、電波兵器の活躍が目立った。その結果、各種の電波の兵器に対抗するための電波管制や電波妨害技術を必然的に発達させた。電子戦の誕生である。

電子戦に使用される技術は ECM (Electronic Counter-Measures) と呼び、この ECM に対抗する技術を ECCM (Electronic Counter-Counter-Measures) という。一九七六年、函館空港に強行着陸したミグ25機は、この ECM の最新の機密をもたらした。それは電子ぎまんの逆探知装置である。

第二次大戦で B29 の本土爆撃を受けた人は知っているように、編隊で飛来し、アルミはくを上空にバラまき、レーダー映像に偽の編隊があらわれるよう電子ぎまん技術もちいた。このアルミまたは

すずはくをチャフといつて、わが国も、昭和18年11月第四次ブーゲンビル島沖航空戦で、攻撃反対側にチャフを散布し、敵のレーダーをぎまんし、敵艦隊の射撃を集中させて、その間に雷撃機が突入し戦果をあげている。

指向性のあるレーダー電波を反射させるコーナ反射器がある。これは、一九四四年の連合軍ノルマルディ上陸作戦に際し、小型モーターボートにコーナ反射器を装備して洋上を行動させた。これを察知したドイツ沿岸警備レーダー網は、大艦隊が移動していると判断した。ドイツ軍がその方面に戦力を集中しているスキに、連合軍が別方面から奇襲上陸し成功した。

最近では、アメリカのベトナム北爆作戦で、ECCMを積載した爆撃機の生還率が70〜95%に及びそのないものは25%であった。電波妨害装置の装備していない爆撃機に兵士達は乗りながらなかったといわれる。

アメリカのU2機がまだ飛んでいる。スパイ衛星が飛んでいる今日電子偵察機U2機がなぜ活躍しているかといえば、電子情報収集 (Electronic Intelligence, ELIN) 活動をしているのだ。すなわち、エリント機を故意に目標国の領域に接近させると、その国の防

衛組織は国籍不明機の接近に対し、ただちに活動を開始するので、逆にエリント機によって、レーダーやミサイル基地等の電波など施設、性能、位置まで容易にとらえられる。このように、第二次大戦に登場した電子戦は、電子偵察 (Electronic Reconnaissance) 、

電波妨害 (Electronic Jammer) 電子ぎまん (Electronic Spoofing) と進歩したが、とくに、ベトナム戦から急速に進歩してきた。ナゾのソ連領空を侵犯したKAL機についてさまさまの憶測が流布されたが、故意に紛れ込んでソ連の防空体制を探ろうとしたのではないかともいわれていた。

どうもそうでもないようではあるが、KAL機の航跡とソ連戦闘機の出現、不時着すべてについて米国の電子探査システムが逐一詳細に情報を握っていたことは驚くべきことである。その上、スパイ衛星が写真を送りつづけていた。

電子戦はすでに始まっている。成田空港管制塔襲撃事件で見られたように、この管制塔機器はすでに旧型式で、大阪空港のそれよりも性能が劣るといわれる。地下ケーブル一本切られると管制業務がマヒするようなシステムでは困りもの。電子線のシステムはあらゆる局面に柔軟に対応する最新鋭のものでなければならぬ。





梅棹 忠夫

# □ビッグ対談□

## 一九八〇年代は “文化化”の時代

梅棹 忠夫〈国立民族学博物館々長〉

陳 舜臣〈作家〉

★「知的遊戯」のモチはやされる時代

陳 一九八〇年代では余暇ができたということが一番大きな問題じゃないですか。週休二日制の企業も四十何パ

ーセントですね。そうすると余暇の使い方の下手な者があわてよる、どうしようかとね。みんな何かしたいという潜在意識はありますね。

梅棹 そうなんですね。暇ができたでしょう。フランス

語でいうとバカンス、時間、でしょう。それは、しかしちよつと変えたとベイカンス、空白なんですよ。人生における空白期間が増えて行っているということですね。そこにどういう体験を押し込むかという問題なんです。押し込む体験がない。人生における新たな体験を求めて大衆的なインテリジェンスが、今、浮動しているところだと思います。一方で知的活動能力が高まって来ますが、その人たちはすることがない。人生で自分のやったことあったことを日記に書いて行ったら、日記に書けないベイカンス、ブランクが増えて行っている。これはかなり深刻な問題だと私は受けています。

陳 これは男性より先に女性の方に現象が起こったでしょう。電化製品の発達もありますが暇が増えましてね。昔は女性は暇がなかったでしょう、洗濯とかで……。子供が手を離れる頃になるとぼつぼつ考えますね、何かしたいと……。文化教室なんか流行るかなと思つたらいいですね。

梅棹 今のところ日本の女性はいわゆる教養の方に行っていますね。

陳 昔からの伝統があるんですね。お花とかお茶とか、女性用の稽古事がありましたからね。外国には余りないですね。レースあみぐらいですね。日本の場合はお茶でもお花でもかなり哲学をもったものでしょう。

梅棹 いわゆるカルチュアですね。恐らくそういう生活文化という点では、世界で最も程度の高い伝統をもった国でしょうね。

陳 生活芸術という、みな中国から来るんですが、それが中国では消化されなかったんですね。消えてしまつて日本に残っているんですね、お茶にしろ、お花にしろ。梅棹 文化的なものの殆どはオリジンは中国ですよ。日本の社会はオリジンの文化的系譜でいえばしょうもないところですね。

陳 しかし、お茶とかお花とかは日本のオリジンに数えていいと思いますよ。



陳 舜臣



梅棹 大衆芸能として展開したところは大変なことですね。

ね。先ほどの余暇の問題ですけど、定年後、引退後もすることがどれだけあるかという問題ですが、日本の場合、引退後することが幾らでもあるわけです。楽しみごとが。アメリカは本当にひどいそうですね。日本はクリエティブな、芸術的創造の契機をはらんだような楽しみごとがいっぱいある国ですね。そういうものの基礎の上に現代的教養がのっているんですね。

陳 民族学なんか年とってからやっている人が多い。

梅棹 最近、顕著なことは、邪馬台国がブームになっていますね。あんなものが楽しみにするという……。

陳 あれは楽しみなんです。

梅棹 楽しみなんです。知的な遊戯ですね。大体、この頃、推理小説とかSFとか非常に流行しているようですね。やはり、頭を働かすことの面白さみたいなものが出て来ますね。その点で、ちょっと、今までの生活文化としてのお稽古事だけじゃなくなって知的になっていますね。

陳 邪馬台国、医学、というものができましたね。魏志倭人伝の何百字だけでね。何百字だけだからみんなが参加できるんですね。

梅棹 UFOがもっている人気でもそうだと思います。

訳が分らなくて決定的なこと何もない。素人がそれぞれ参加できるんですね。少しずつ宇宙物理とか、重力学とかいろいろなことを考えながらやれる可能性をもっているんですね。八〇年代に入ればそういう傾向が着実に進行するのじゃないですか。私は日本の場合は特にそう見えているんです。日本の場合、六〇年代から七〇年代の初めにかけては、いい古されていることですけど、経済の時代。経済さえうまく行けばすべてうまく行くという一種の思い込みみたいなものがあったわけですが、経済が挫折して初めて経済外のものが解るようになってきた。

陳 しかし、それも経済のおかげで余裕ができて来たか

らですね。経済時代の余沢であるわけですね。

梅棹 ただ、文化の時代と簡単にいいますけれど、経済の時代がダメで、それに変わるものというのでは決していない。その上に立っているわけですね。経済的な繁栄がなかったならとてもできないことです。

たとえば、この博物館にしても相当の国費が投入されているのですが、そういうことが可能になった背景は社会の潜在的なニーズがあるからだと思うんです。五〇年代から六〇年代だったらできていないでしょうね。万博という経験を一本通過したから日本人はある意味ではお金の使い方が上手になったんですよ。それまでは儲かることにしか使えない、お金を再生するものにしか使えない。まあ、貧乏人根性ですね。

陳 万博は規則があるんでしょう。できたものはつぶさないといけないという。あれがかなりのショックだったんじゃないですか。(笑)

梅棹 それで洗礼を受けたわけですね。お祭りや楽しみにお金をばーんと放り込むことは本当に値打ちのあることだということが解って来たんですね。万博は日本のインテリには大変評判が悪かったと思うんですが、日本の平均的なインテレクチュアルズのもの考え方というのは逆にいえば相当骨の髄まで経済に汚染されていますね。インテリがですよ。万博は無駄使い、無駄なことだと。あるいは、あれ自身が財界のためだと見ていたことは間違いないと思いますね。万博というとうとうもないお祭り騒ぎのなかにはらまれておった文化的萌芽というものをかきわけることがあんまりできなかったんじゃないですか。

陳 そうでしようね。やつぱり、ちよつと「貧乏たれ」だった。貧乏たれの知性ですよ。一生懸命に働いて、無駄使いはようせんというね……。

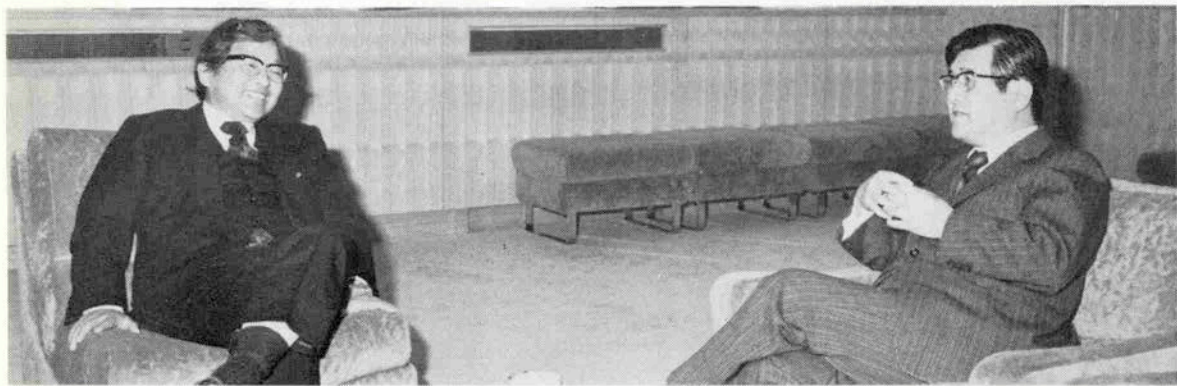
★社会は「文化化」の方向に向かっている

——この間、『中央公論』で文化産業論を特集していま

したが、生活者の選択が非常にバラエティに富んで来て、大量生産のできるものがなくなってきた。企業の体質が変えられないところは倒産したりしています。

梅棹 アパレルの世界は文化的萌芽をたくさんもった産業ですから対応がよければ十分やれるはずですね。むしろ、大変危険性をはらんでいるのは経済でいえば鉄だと思います。鉄とかセメントとか、特に鉄は文化の時代にあまり適応力がないのじゃないか。今までの体質のままなら鉄関連産業は大失敗をする可能性があると思いますね。まだ他の軽金属の方がいいのじゃないか。大量生産方式は文化の時代には適応力がないですね。陳 大量に同じものをつくるというのは、文化じゃないですね。

梅棹 文化というのは基本的には一種の精神の自由と結びついているわけでしょう。というのは、多種多様なもののなかから選択の自由を自分もっているのだという喜びみたいなものが文化を支えている。一九八〇年代にはすぐそういうことが現われるかどうか分りませんが、九〇年代になったらハッキリ出て来ると思います。たとえば日下公人氏（日本長期信用銀行部長）の文化産業論みたいなものが解らないのは、鉄関連産業界じゃないですか。ところが、社



会は着実に文化化、「文化化」という言葉を使ってよろしいかな、私はそう見ているのですが、着実に文化化の方向へ向いつつある。それをいかにして産業にするかはそれぞれの経済界の人の腕の見せどころですね。人間精神はやはり文化化しつつあると思います。

陳 だから文化化に適応できない人は非常に寂しくて、いろんなものがあるのだけど、その中で孤立するということになって来ますからね。

梅棹 なると思いますね。

陳 選ぶ能力もなくて、能力というのかなあ……心のゆとりもなく、いろんなものがあるんだけど自分だけ何にもできなくて孤立するという人がでて来ますね。

梅棹 何かものの豊富さに取り巻かれた絶望みたいなことがあり得ると思いますね。

陳 悲劇的です。魔墟のなかに立つて絶望するのはまだ分るのだけど、花園のなかで何もできずに……。選り慣れているというか、選りに対応できる教育はできていますかな。勝手に自分で習って行くものでしょうけどね。

梅棹 逆にいえば、うまくそれができていないために教育という営みが、だんだん社会でウエイトが低くなっているわけですね。

陳 それはいえません。そういう



ものは教育の分野じゃないでしょうね。こういうものは自分でつかむことで学校教育に頼るのはよくないのじゃないですか。

梅棹 広い意味では教育なんでしょうけれどね。いわゆる学校教育の果す役割のウエイトはむしろ低くなっていますね。あるいは、学校教育のもっているバカらしさにみんな割に気がついて来た。いろいろ日本の社会がもっている欠陥はたくさんありますが、矛盾が蓄積されてどうしようもならないところへ来ているのは、住宅と教育だと思わんですがね。これは大分ひどい状況に來ている。

陳 住宅問題はいわば香港文化ですね。香港はあんな狭いところに何百万といますから、蚕棚みたいなところに住んでいますので、かなりの仕事をしている人でも客を家に呼べないんです。中国人はお客好きなんだけれども物理的に呼べない。日本でも家に呼べる人は少いですね、パーセンテージとしては。

梅棹 元々、日本は一種の「公」文化なんです。「私」文化の傾向は非常に少ない。したがって、建物なんかでも公的な建物はかなりいいんです。伝統的にそうですね。私的な住宅、特に都市住宅は、一ぺんもロクなものをつくったことはないですね。(笑) 住宅を手に入れることの難しさが他のあらゆる欲求を押しつぶしていますからね。そういう点で住宅問題がさつきいた日本全体の文化化の傾向の大障害になって来ていると思いますね。

陳 障害は一つぐらいあった方がいいのじゃないですか何も障害なしで行くよりは一つぐらい問題をかかえて。そして、頑張る。(笑)

梅棹 他の消費に比べて住宅は経済的な負担が大き過ぎるんですよ。他の消費を圧迫しているわけですよ。文化が大産業になるにも関わらずそれを一番圧迫して障害になっているのが住宅問題。もう一つ教育の問題が圧迫要因になっています。教育がひどいものだから若い国民が

文化化しようとする傾向をチェックし、押さえている。恐らく制度的原因が大きいと思うのですが。とにかく入学試験を突破するまでは何もかもできんですよ。

陳 志ある人はね。(笑) 志ない人は初めから落ちこぼれで。まあ、そのなかからも出て来るとは思いますけどね。志ある人が二十歳近くまで何もできないというのは……。

梅棹 悲劇的でしょう。何か方法がないものでしょうかね。一方では経済的社会的要因から文化化が着実に進行している。一方では物質的精神的に両面から押さえつける因子がありますからね。かなり緊張が高まって来るのじゃないですか。

陳 住宅と教育という二つの障害をかかえて行くということですね。障害のないところには発達もありませんから。梅棹 矛盾というものは確かに必要なものです。

陳 一九八〇年代は文化化の時代で、住宅と教育問題をかかえてそれに挑戦する時代ですね。

梅棹 この二つの巨大な障害をどう克服するか。

#### ★危険な教育の画一化

陳 知的なものに対する要求に応えるものとしてこういう博物館がこれからもどんどんできるという見込みはあります。

梅棹 見込みはあると思います。日本館の跡にもう一つ博物館を立てるべきだといっているんです。できればそれは文化の博物館ではなくて自然科学、科学と技術の博物館をと考えているのですが。一種のコーディネーターが必要ですね。いろんな要素を結び合わせて一つの具体的なビジョンをつくって行き、着実にそういう構想を現実化して行く、そういう人が出て来ればいろいろできると思います。素質のある人をうまくコーディネーターとして育てて行くことが必要な時代ですね。

陳 また教育に関わって来ますね。

梅棹 今までの制度的教育とはちよつと違いますね。今

までの教育は大学といえど、あるいは大学院というところまで考えても、これは大衆教育なんです。エリート教育には全然なっていない。経済界でも各企業のなかでそういうエリート教育をやるんでしょうね。

陳 そうですね。気の利いたところでは自分のところでもやりますね。

梅棹 それだけに益々大学はダメになって行くのですね。大学というのは今、単に選別機関ですからね。企業のための人材選別機関になっている。

陳 たとえば、小学校一年生でバカみたいにポカンとしているのがいるけれど、これは偉いかも知れないですよね。リング三つとナシ二つを置いて、三と二は幾つだという普通の生徒は五つだと答えるけれど、特異な才能の生徒は、ああ、綺麗な色だなあ……と思ってポカンとしてしまう。すると、これはバカだということになる。その子の色彩に対する態度を見て、色彩に対する感受性が強いのか弱いのかということを見つける人がいないのじゃないですか。

梅棹 全体の組織、機構がそういうものをむしろ圧殺するように作用するんですね。

陳 その子にはリングの赤を見るな、数だけ見ろということになってしまふ。

梅棹 数だけ見ない者は切られるわけです。結局、個人の素質なり人間の能力の画一化がどんどん促進されるような構造になっている。

陳 画一化を大衆化と間違っているのじゃないかと思えますね。教育の大衆化、多くの人が高い教育を受けるのはいいのですが、そうじゃなくて、画一化になっている。

梅棹 そういう点では恐るべき事態にさしかかっていると思うのですが……。社会全体として非常にいびつなことになっている。

★民博ができた背景には国際的危機感があった

陳 このあとには劇場なんかつくる予定はあるんですか  
梅棹 こはいいです。こはさっきの日本館跡地しか空地がないです。それに劇場というのは夜の文化でしよう。こは夜はダメなんです。昼の文化です。大阪では夜の文化のセンターとしてもう一べん中之島を興さないといけないと思いますね。北摂七市になりますか、この地帯は一種の昼の国際文化地帯になって行くと。そういう考え方でやった方がいいのじゃないか。夜は都会の足の便のいいところでね。今、新しい芸能センターをつくらうといっているのは阪大の跡ですね。神戸でもポートアイランドの博覧会は万博と同じで跡地は十分に利用できる可能性がありますね。ポートアイランドは八〇年代に大変使い手のあるものになって行くと思いますね、うまくやれば。それこそ文化化すれば。ただ単に倉庫とか、そんなものが並んでいるだけではしょうがないです。

陳 港湾関連産業だけでは淋しい町になりますね。昼だけ働いて夜になるとバツと引きあげてというのは困る。

神戸のオリエンタルホテルのあたりのオフィス街がそうなっていますね。ポートアイランドに住宅をつくっても入る人がないと困る。魅力がないと入りませんからね。

梅棹 開館して五か月近くの間に二十数万人が入ったんですが、見ていまして本当に昔と変わって来たなと思えますね。みなさんこういうものを実によく楽しむ術を知っている。昔でしたら博物館に来るのは一握りの好事家とか特別の興味のある人しか来なかった。今は見えますと誰でもが楽しんでますね。滞留時間もかなり長いですよ。知的な興味がなければ二時間も三時間も過ぐすということは耐えられないですよ。日本の大衆の精神構造が変わって来ますね。私はこれをやって日本の市民というものをある意味で見直しましたね。えらいところまで来たという感じですねえ、本当に……。

陳 来る人にとってはえらいものをつくったなあという感じですね。(笑)

梅棹 学生の団体などは少なくて主力は普通の市民です



よ。これまでは博物館というと教育的施設という見方が強いですね。文化財保護でなければ社会教育ということになっているわけですね。民博はちよつと違いますよ。私は、アミュージアムといっているんですよ。知的アミューズメントというつもりなんですけどね。(笑)

陳 そういう方面の需要が、需要というのもおかしいですが、増えるんじゃないですか。

梅棹 ええ、今、潜在的にそういうニーズがものすごく大きくなって来ていますね。教育水準が大変高くなって知的活動力が高くなった。いわゆる低俗なものでは満足できなくなったということです。

陳 どのジャンルでもそうですね。

梅棹 ここへ来られている観客の方もものすごくりっぱです。露出展示をやっているでしょう。あれをみんなが心配なさいますね。こんなことをやったら一ぺんになくなるぞとね。日本の大衆は程度が悪いという前提でおっしゃっているのですが、やってみたらそんなことはないですよ。あれだけむき出してやっていますが、何一つなくなったりはしていませんね。

こういうものができた背後というところ、一種の国際的な危機感がありますね。余りにも世界のことを知らないで走っていたと。これはいかんということがありますね。とにかく国民全体の国際的な知識と関心をもう少し高いところへもつて来ないといけないということです。こういう論理はお役人でも非常によく分るんです。そういう危機感はあるんですね。

陳 役人はやっぱり情報が多いでしょうからね。

梅棹 今年、もう一つブロックができるんです。それを中央アジア、北アジアに使いたい。その次にできるブロックで中国と朝鮮をやりたいですね。二、三年先になりますが、それまでに資料を準備しておかないといけない。ここはヨーロッパの博物館とは大分違います。ベルリンのダーレムにむしろ近いですね。ただ、組織としては大分違います。組織としてはここははるかに研究所

的ですね。すでに民族学のスタッフが五〇名いますからね。世界最大の民族学集団ですよ。

陳 中国がここへ建築家を寄こしたというお話ですが、それは中国側に反省があったと思うんです。向こうへ行ったらだだっ広いソ連式の建物で、僕は蘭州の博物館へ行つて三階まで上るのに往生しました。六階か七階へ上っているような天井の高いものすごく効率の悪い建物ですよ。だから建て直そうという気があるのでしょうか。

梅棹 ヨーロッパでもソ連でもアメリカでも天井が高すぎるんです。十八世紀から十九世紀にかけて博物館が動き出した頃は、王侯貴族の館を使っているんです。だから宮殿なんです。宮殿建築が博物館建築だという誤解が生まれたんですね。どこかもそういう壮大なものを建てている。実際にものを見るのにそんなに天井の高い建物はナンセンスなんです。ここは天井を非常に低くしています。住宅よりは高いですけどね。宮殿イメージから抜けた博物館はここが初めてじゃないですか。日本でも宮殿イメージでしょう。どうしてもそういう感じですね。

陳 日本の場合、明治につくった博物館には国威発揚みたいなこともあったんでしょうね。

梅棹 それと日本の博物館は基本が文化財の保護なんです。それが全部を貫いているんです。ここはそれと全然関係がないんです。

また、ヨーロッパの博物館と比べて大変違うところは文化についての差別がない。全部フラットに考えています。ヨーロッパの人は主体と客体がハッキリしています。つまり、ヨーロッパの人から見れば民族学は未開、野蛮の土人の研究なんです。我々から見たらオセアニアもアメリカもヨーロッパも同じことですからヨーロッパも同じように並べています。土人というならば我々も日本の土人であり、ヨーロッパ人もヨーロッパの土人だという考えですね。

(国立民族学博物館々長室にて)

サチ  
オオカレ!

ジューン  
ブライドニ



ウェディングケーキご婚礼お引出菓子予約承ります

北欧の銘菓  
**ユーハイム・コンフェクト**

■本社・工場・熊内店 神戸市灘区熊内町1-8(南浜美術館東隣) TEL.221 1164  
■三宮センター店・さんちか店・大丸・そごう・阪急・三越・神戸テレポート・元町店

ハイセンスの紳士服で  
最高のおしゃれを



**三恵洋服店**

神戸・元町4丁目 ☎(078)341-7290